

日本映画放送株式会社 第 68 番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 31 年 3 月 26 日（火）15 時～16 時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 9 名 / 出席委員数 8 名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・
田保橋 淳・西 正・宮崎 美紀子・山川 欽郎
欠席委員（敬称略）：鳥居 美砂
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部長 小川 英洋
編成制作部 秋永 全徳
編成制作部 三宅 歩
番審担当 堤 靖芳
清水 明（記）

4. 議題（1）審議事項

時代劇専門チャンネル「闇の歯車」について

（2）報告事項

日本映画専門チャンネル「特集 岩井秀人」について

5. 議題（1）概要

「時代劇の火を消すな」のスローガンのもと、私たちはオリジナル本格時代劇 18 作品を製作してきた。今、開局 20 周年の節目を迎え、また次の 20 年を見据え、藤沢周平がダークなモチーフを取り上げた傑作サスペンス時代小説『闇の歯車』を初映像化した。主演には若い世代に支持を集める瑛太と、ベテラン俳優の橋爪功をキャスティング、監督は「鬼兵犯科帳 THE FINAL」などを手掛けた山下智彦を配した。2 月 9 日にテレビ初放送したが、それに先駆けて 1 月 19 日より全国 5 大都市で期間限定上映を実施し、テレビドラマではあるが、放映前に劇場興行をするという新しい試みを行った。

【審議ポイント】

- 作品は、時代劇専門チャンネルにとって長年懸案になっていた、若い層や女性層に対するアピールとして、有効な作品となっているでしょうか。

6. 議題（1）審議内容

- ・藤沢作品の中でも異色な小説を映像化したことに意外性があり新鮮。センスを感じる。瑛太は危ない美しさが要求される陰のある町人役がしっくりきた。アップが美しいし、ベテランの橋爪功との対比もいい。今後さらにフレッシュな俳優を起用してほしい。
- ・橋爪も瑛太も色気があって良かった。ただ映像が明る過ぎる。もっと闇を押し出している。若者や女性といっても多様だ。分析を細分化した方がいい。
- ・「鬼平犯科帳」のような映像で始まったが、サスペンスというより藤沢周平作品らしい人情の機微に触れる作品。良い女優が演じているのに、女性の役柄が魅力的でないのは残念。男性の美学を貫いた方が女性も興味を持つのではないか。
- ・充実した製作力を育てたことに敬意を表したい。しかし、時代劇は正確な時代考証に縛られ過ぎだ。時代考証であり得ないからと面白い発想をカットしてはいけない。
- ・若者向けにするにはサスペンス色が弱い。素人集団が強盗をする、というコンセプトなので仕方がないが。しかし、映像が美しく、黒猫の目の映像などは迫力があつた。
- ・瑛太は若い頃の鶴田浩二のようで色気があつた。瑛太主演の時代劇シリーズを期待する。
- ・夜や闇にうごめく者の時代劇はたくさんあるが、黄昏時のドラマは少ない。昼と夜の合間のエアポケットのような時間を山下監督がうまく映像化した。これからの時代劇は、審議委員が「なんじゃこりゃ？」と思うような、賛否両論のものがあつていい。
- ・美しい映像と個性的な登場人物で2時間があつという間だった。劇場を活用した展開も良かった。若い層の取り込みについては、時代劇を知らない若者に合わせるのではなく、彼らに時代劇をしっかり見せる場をつくり、どう感じたかを知る機会が必要だ。
- ・若手人気俳優の瑛太がキャスティングされたので、女性加入者が増えたのだと思う。橋爪功も良かった。作品を締める重鎮役者も大事だ。同じキャストで続編を作ってもいい。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・放送に先駆けて劇場公開があつたが、主演の瑛太が取材時間を多く確保してくれたので、パブリシティの引きがあつた。また、記者や雑誌も映画コーナーで本作を扱ってくれたので、通常の3倍ぐらいの露出がとれた。
- ・今回は瑛太目当てで加入した人も多いが、どこまで継続してくれるか未知数だ。普段「鬼平」を観てくれるお客様をコアに、どうやって新たな視聴者層を広げていくのが大切。今、地上波のドラマは視聴率獲得のために物語の幅が狭くなっている。ドラマを見たい人に向け、我々はブレずに確かな玉を投げ続けるのみだ。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル 「特集 岩井秀人」について

向田邦子賞や岸田國士戯曲賞を受賞歴もある、人気劇作家の岩井秀人の特集を3月4月に組んだ。昨年、劇団ハイバイ旗揚げ15周年を迎え、今年2月は東京芸術劇場プレイハウ

スで過去最大の舞台『世界を一人』を上演した。松尾スズキ、松たか子、瑛太といった一流俳優が出演し、大きな話題となった。日本映画専門チャンネルでは、劇団の公演9作品と、本読み稽古から密着したオリジナルドキュメンタリーを放送。多くの舞台がテレビ初放送ということもあり、劇団ファンが敏感に反応してネット経由での加入が急伸した。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、5月21日15時より開催。